

# 朱德熙(1982)における「話題」について

A Study of topic in Zhu (1982)

青木 萌

## 0. はじめに

本稿は現代中国語における話題(topic)について論じる。主として朱德熙(1982:96(《语法讲义》の7.1.3, 7.1.4))の主述構造における記述と用例を基に, 述語論理(predicate logic)と命題論理(propositional logic)によって構成される論理式を用いて, 主述構造に含まれている意味を記述する。これにより, 主述構造の話題とは, 述語部分に内在する意味の中から選択した成分である, ということを明らかにする。また, 小説とテレビドラマから収集した実例を用いて, 主述構造の前の文脈, あるいは, 主述構造の話題が有する意味に着目し, 当構造における話題が「確定的」であることを証明する。さらに, これらに対しても論理式による分析を行う。このようなアプローチは, 管見の及ぶ限りでは, 見当たらないため, 試みる価値があるといえる。

第一章では, 朱德熙(1982:96)の記述と用例を確認し, それらに対して解説を加える。

## 1. 話題について

まず, 朱德熙(1982:96)の主述構造に対する記述を見られたい<sup>1)</sup>。なお, 本稿の中国語に対する日本語訳および下線はすべて筆者による。

「从表达上说，说话的人有选择主语的自由。同样的意思，可以选择施事作主语，也可以选择受事或与事作主语。」（表現の観点から言うと，発話者は主語を選択する自由がある。同様の意で，動作主を選んで主語としたり，受け手や与格を選んで主語とすることもできる。）

そして，朱德熙(1982:96)は用例として以下の八例を挙げた。注目されたのは下線の主語の部分である。この部分が話題であると考える。

- (1) a. 我们昨天开了一个会(私たちは昨日会議を開いた)
- b. 昨天我们开了一个会(昨日私たちは会議を開いた)
- (2) a. 他把电视机弄坏了(彼はテレビを壊した)
- b. 电视机让他弄坏了(テレビは彼に壊された)
- (3) a. 我用这只笔写小楷(私はこの筆を用いて小楷を書く)
- b. 这只笔我用来写小楷(この筆は私は小楷を書くのに用いる)
- (4) a. 我给小王写了一封信(私は王さんに手紙を書いた)
- b. 小王我也给他写了一封信(王さんは私も彼に手紙を書いた)

以下，上の(1)-(4)の例における話題を確認する。

(1)の a の“我们昨天开了一个会”では，“我们”という「動作主」が話題であり，b の“昨天我们开了一个会”では，“昨天”という「時間」が話題である。(2)の a の“他把电视机弄坏了”では，“他”という「動作主」が話題であり，b の“电视机让他弄坏了”においては，“电视机”という「受け手」が話題である。(3)の a の“我用这只笔写小楷”では，“我”が話題の役割を担い，これは「動作主」である。b の“这只笔我用来写小楷”では，“这只笔”という「道具」が話題である。(4)の a における“我给小王写了一封信”の話題は“我”であり，これは「動作主」である。そして，b の“小王我也给他写了一封信”における話題は“小王”であり，これは「与格」と見なしうる。

さらに，朱德熙(1982:96)は上の例に対して次のように述べた。

「这四组句子里相对应的(a)和(b)基本意思相同，只是所选的主语不一样。说话的人选来作主语的是他最感兴趣的话题，谓语则是对于选定了的话题的陈述。通常说主语是话题，就是从表达的角度说的，至于说主语是

施事、受事或与事，那是从语义的角度说的，二者也不能混同。」(この四組の文において対応する(a)と(b)の基本的な意味は同じだが，選ばれた主語が異なる。発話者が主語として選んだのは最も関心のある話題である。述語は選んだ話題に対する評価表現(comment)である。通常，主語は話題と言われるが，これは表現の角度から言ったものである。主語が動作主、受け手，あるいは与格であるというのは，意味の角度から言ったものである。故に，両者を混同させてはならない。)

ここで再度上記の朱德熙(1982:96)の「四組の文において対応する(a)と(b)の基本的な意味は同じだが，選ばれた主語が異なる」という箇所の記述に注目されたい。実は，論理式を用いて分析すると，この記述に対して合理的に説明することができる。次章を見られたい。

## 2. 論理式による分析

### 2.1 “我们昨天开了一个会”と“昨天我们开了一个会”の論理式

本章では前章で挙げた(1)-(4)における用例を順番に論理式で分析する。これにより，前章の終わりで指摘した朱德熙(1982:96)の「四組の文において対応する(a)と(b)の基本的な意味は同じだが，選ばれた主語が異なる」という記述に対して詳述することができる。

まず，「四組の文において対応する(a)と(b)の基本的な意味は同じ」の箇所について，具体的に例を用いて説明しよう。(1)の a の“我们昨天开了一个会”と b の“昨天我们开了一个会”を例にする。自明の如く，a の主語は“我们”で，述語は“昨天开了一个会”である。一方，b の主語は“昨天”で，述語は“我们开了一个会”である。そこで，(1)の a の主語の部分と b の主語の部分順番に論理式で表してみよう。まず(1)の a の“我们昨天开了一个会”における主語の“我们”は次のように表記できる<sup>2)3)</sup>。

- (5) 持ツ    ~ガ    ~ヲ  
有' 【我们，……】

この式は「私たちという話題(topic)が、～という評価表現(comment)を、持つ」という意味を表している。

次に、(1)の b の“昨天我们开了一个会”における主語の“昨天”を論理式に反映させると、

(6) 持ツ ～ガ ～ヲ  
有’ 【昨天, ……】

となる。この式は「昨日という話題が、～という評価表現を、持つ」という意味を表している。

今度は(1)の a の述語の部分と b の述語の部分の順に論理式で表現する。まず a の“我们昨天开了一个会”において述語を担う“昨天开了一个会”の部分は、

(7) スル ～ガ ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ  
开’ (我们, 会) & 有’ {开’ (我们, 会), 了}&

持ツ ～ガ ～ヲ  
有’ [有’ {开’ (我们, 会), 了}, 昨天]

と書くことができる。この式は「私たちが会議をし、かつ、それ(私たちが会議をする)が[完了]という様態を持ち、かつ、それ(私たちが会議をした)が昨日という時間を持つ」と読むことができる。この式の中の“开’ (我们, 会)”は「私たちが、会議を、する」という意味を表し、“有’ {开’ (我们, 会), 了}”は「私たちが会議をするが、[完了]という様態を持つ」という意味を表し、“有’ [有’ {开’ (我们, 会), 了}, 昨天]”は「私たちが会議をしたが、昨日という時間を、持つ」という意を表している。

そして、(1)の b の“昨天我们开了一个会”において述語の役割を果たす“我们开了一个会”の部分を論理表記すると、

(8) スル ～ガ ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ  
开’ (我们, 会) & 有’ {开’ (我们, 会), 了}&

持ツ                      ～ガ                      ～ヲ

有' [有' {开' (我们, 会), 了}, 昨天]

となる。実は、この(8)の式は(7)の式と同じであり、「私たちが会議をし、かつ、それ(私たちが会議をする)が[完了]という様態を持ち、かつ、それ(私たちが会議をした)が昨日という時間を持つ」と読むことができる。この式の中の“开' (我们, 会)”は「私たちが、会議を、する」という意味を、“有' {开' (我们, 会), 了}”は「私たちが会議をするが、[完了]という様態を、持つ」という意味を、そして“有' [有' {开' (我们, 会), 了}, 昨天]”は「私たちが会議をしたが、昨日という時間を、持つ」という意を表している。

つまり、a の“我们昨天开了一个会”における述語の“昨天开了一个会”の部分が表す意味と、b の“昨天我们开了一个会”における述語の“我们开了一个会”の部分が表す意味は同じである。これは正に、朱德熙(1982:96)が述べた「四組の文において対応する(a)と(b)の基本的な意味は同じ」という見解を論理的に表示していると見なしえる。

次に、朱德熙(1982:96)の「選ばれた主語が異なる」の箇所の記述について論じる。本稿では次のように考える。すなわち、述語の部分に内在する意味から話題となる成分を選択することができる、と理解する。従って、上記の如く論理式を用いて分析し、述語の部分に内在する意味を明示すると、この式の中に話題として選択しえる成分がすでに存在している、ということを見取しえる。要するに、(1)の a の“我们昨天开了一个会”は“我们”が話題だが、これは(7)の式の「开' (我们, 会)&有' {开' (我们, 会), 了}&有' [有' {开' (我们, 会), 了}, 昨天]」の中に話題として選ばれる“我们”が既に存在しているのが分かる。同様に、(1)の b の“昨天我们开了一个会”は“昨天”が話題だが、これは(8)の式の「开' (我们, 会)&有' {开' (我们, 会), 了}&有' [有' {开' (我们, 会), 了}, 昨天]」の中に話題として選ばれる“昨天”が既に存在しているのが分かる。

では、最後に(1)の a の文全体の論理式と b の文全体の論理式を表しておこう。要するに、以下の(9)は、(1)の a の“我们昨天开了一个会”に

対する論理式であり、(10)は、(1)の b の“昨天我们开了一个会”に対する論理式である。まず、(9)の式を見られたい。

(9)                   スル   ～ガ   ～ヲ 持ツ                   ～ガ                   ～ヲ  
       有’ 【我们, 开’ (我们, 会) & 有’ {开’ (我们, 会), 了}&  
       持ツ   ～ガ

持ツ                   ～ガ                   ～ヲ  
   有’ [有’ {开’ (我们, 会), 了}, 昨天]  
                           ～ヲ

この式の読みは以下のようなになる。

「私たちという話題が、私たちが会議をし、かつ、それ(私たちが会議をする)が[完了]し、かつ、それ(私たちが会議をした)が昨日という時間を持つ、という評価表現を持つ」

この式の中の“有’ 【我们, ……】”は「私たちという話題が、～という評価表現を、持つ」という意味を表している。“开’ (我们, 会)”は「私たちが、会議を、する」という意味を表している。“有’ {开’ (我们, 会), 了}”は「私たちが会議をするが、[完了]という様態を持つ」という意味を表している。そして“有’ [有’ {开’ (我们, 会), 了}, 昨天]”は「私たちが会議をしたが、昨日という時間を、持つ」という意を表している。

次に(10)の論理式を見られたい。

(10)                   スル   ～ガ   ～ヲ 持ツ                   ～ガ                   ～ヲ  
       有’ 【昨天, 开’ (我们, 会) & 有’ {开’ (我们, 会), 了}&  
       持ツ   ～ガ

持ツ                   ～ガ                   ～ヲ  
   有’ [有’ {开’ (我们, 会), 了}, 昨天]  
                           ～ヲ

この式は「昨日という話題が、私たちが会議をし、かつ、それ(私たちが会議をする)が[完了]し、かつ、それ(私たちが会議をした)が昨日という時間を持つ、という評価表現を持つ」と読むことができる。この式の中の“有”【昨天,……】は「昨日という話題が、～という評価表現を、持つ」という意味を表している。“开”(我们,会)は「私たちが、会議を、する」という意味を表している。“有”{开(我们,会),了}は「私たちが会議をするが、[完了]という様態を持つ」という意味を表している。そして“有”[有]{开(我们,会),了,昨天}は「私たちが会議をしたが、昨日という時間を、持つ」という意を表している。

以下、前章で挙げた(2)-(4)の例も論理式で表記する。これらの例も論理式を用いると、それぞれの a と b の文における述語部分の意味は基本的に同じであると解しえるが、述語部分の意味を表した論理式の中のどの成分を選択するかによって、主述構造において話題となる成分が異なってくる、と見なしえる。まず“他把电视机弄坏了”の論理式を考えてみよう。

## 2.2 “他把电视机弄坏了”の論理式

(11)                    弄ル    ~ガ    ~ヲ   壊レル    ~ガ  
                           把’ [他, 电视机, 弄’ (他, 电视机) & 坏’ (电视机) &  
                           モタラス    ~ガ    ~ニ

持ツ                    ~ガ                    ~ヲ  
                           有’ {弄’ (他, 电视机) & 坏’ (电视机), 了}  
                           ~ヲ

この式は「彼という話題が、テレビに、彼がテレビを弄り、かつ、そのテレビが壊れ、かつ、それ(彼がテレビを弄ってそのテレビが壊れる)が[完了]という様態にある、という評価表現をもたらす」と読むことができる。この式の中の“把”[他, 电视机, ……]は「彼という話題が、テレビに、～という評価表現を、もたらす」という意味を表している。“弄”(他, 电视机)は「彼が、テレビを、弄る」という意味を表している。“坏”(电视机)は「テレビが、壊れる」という意味を表している。

そして“有’ {弄’ (他, 电视机)&坏’ (电视机), 了}”は「彼がテレビを弄りかつそのテレビが壊れるが, [完了]という様態を, 持つ」という意を表している。

### 2.3 “电视机让他弄坏了”の論理式

(12) 弄ル ～ガ ～ヲ 壊レル ～ガ  
 让’ [电视机, 他, 弄’ (他, 电视机) & 坏’ (电视机)&  
 被ル ～ガ ～ニヨotte

持ツ ～ガ ～ヲ  
 有’ {弄’ (他, 电视机) & 坏’ (电视机), 了}]  
 ～ヲ

この式は「テレビという話題が, 彼によって, 彼がテレビを弄り, かつ, そのテレビが壊れ, かつ, それ(彼がテレビを弄ってそのテレビが壊れる)が[完了]という様態にある, という評価表現を被る」と読むことができる。この式の中の“让’ [电视机, 他, …….]”は「テレビという話題が, 彼によって, ～という評価表現を, 被る」という意味を表している。

“弄’ (他, 电视机)”は「彼が, テレビを, 弄る」という意味を表している。“坏’ (电视机)”は「テレビが, 壊れる」という意味を表している。そして“有’ {弄’ (他, 电视机)&坏’ (电视机), 了}”は「彼がテレビを弄りかつそのテレビが壊れるが, [完了]という様態を, 持つ」という意を表している。

### 2.4 “我用这只笔写小楷”の論理式

(13) 書ク ～ガ ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ  
 用’ [我, 这只笔, 写’ (我, 小楷) & 有’ {写’ (我, 小楷), 用’ (我, 这只笔)}]  
 スル ～ガ ～デ ～ヲ

この式は次のように読むことができる。

「私という話題が, この筆で, 私が小楷を書き, かつ, それ(私が小楷を書く)が私がこの筆を用いるという様態を持つ, という評価表現をする」



この式の中の“写’(我,小楷)”は「私が、小楷を、書く」という意味を表している。“有’ {写’(我,小楷),用’(我,这只笔)}”は「私が小楷を書くが、私がこの筆を用いるという様態を、持つ」という意味を表している。そして“用’(我,这只笔)”は「私が、この筆を、用いる」という意を表している。

### 2.5 “这只笔我用来写小楷”の論理式

- (14) 書ク ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ  
 有’ [这只笔,写’(我,小楷) & 有’ {写’(我,小楷),用来’(我,这只笔)}]  
 持ツ ~ガ ~ヲ

この式は「この筆という話題が、私が小楷を書き、かつ、それ(私が小楷を書く)が私がこの筆を用いるという様態を持つ、という評価表現を持つ」と読むことができる。この式の中の“有’ [这只笔,……]”は「この筆という話題が、~という評価表現を、持つ」という意味を表している。“写’(我,小楷)”は「私が、小楷を、書く」という意味を表している。“有’ {写’(我,小楷),用来’(我,这只笔)}”は「私が小楷を書くが、私がこの筆を用いるという様態を、持つ」という意味を表している。そして“用来’(我,这只笔)”は「私が、この筆を、用いる」という意を表している。

### 2.6 “我给小王写了一封信”の論理式

- (15) 書ク ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ 到ル ~ガ ~ニ  
 给’ [我,小王,写’(我,信) & 有’(信,一封) & 到’(一封,小王)&  
 スル ~ガ ~ニ  
  
 持ツ ~ガ ~ヲ  
 有’ {写’(我,信) & 有’(信,一封) & 到’(一封,小王),了}]  
 ~ヲ

この式の読みは「私という話題が、王さんに、私が手紙を書き、かつ、その手紙が一通という数量を持ち、かつ、その一通が王さんに到り、かつ、それ(私が手紙を書き、かつその手紙が一通という数量を持ち、かつその

一通が王さんに到る)が[完了]という様態を持つ、という評価表現をする」となる。この式の中の“給’ [我, 小王, ……]”は「私という話題が, 王さんに, ~という評価表現を, する」という意味を表している。“写’ (我, 信)”は「私が, 手紙を, 書く」という意味を表している。“有’ (信, 一封)”は「手紙が, 一通という数量を, 持つ」という意味を表している。“到’ (一封, 小王)”は「一通が, 王さんに, 到る」という意味を表している。そして“有’ {写’ (我, 信)&有’ (信, 一封)&到’ (一封, 小王), 了}”は「私が手紙を一通書いてそれが王さんに到るが, [完了]という様態を, 持つ」という意を表している。

## 2.7 “小王我也给他写了一封信”の論理式

(16) 書ク ~ガ ~ヲ 持ツ ~ガ ~ヲ 到ル ~ガ ~ニ  
有’ 【小王, 给’ [我, 他, 写’ (我, 信) & 有’ (信, 一封) & 到’ (一封, 他) &  
スル ~ガ ~ニ  
持ツ ~ガ

持ツ ~ガ ~ヲ  
有’ {写’ (我, 信) & 有’ (信, 一封) & 到’ (一封, 他), 了}】  
~ヲ  
~ヲ

この式は「王さんという話題が, 私が, 王さんに, 私が手紙を書き, かつ, その手紙が一通という数量を持ち, かつ, その一通が王さんに到り, かつ, それ(私が手紙を書き, かつその手紙が一通という数量を持ち, かつその一通が王さんに到る)が[完了]という様態を持つ, ということをする, という評価表現を持つ」と読むことができる。この式の中の“有’ 【小王, ……]”は「王さんが, ~という評価表現を, 持つ」という意味を表している。“给’ [我, 小王, ……]”は「私が, 王さんに, ~ということをする, する」という意味を表している。“写’ (我, 信)”は「私が, 手紙を, 書く」という意味を表している。“有’ (信, 一封)”は「手紙が, 一通という数量を, 持つ」という意味を表している。“到’ (一封, 小王)”

は「一通が、王さんに、到る」という意味を表している。そして“有’ {写’ (我, 信)&有’ (信, 一封)&到’ (一封, 小王), 了)”は「私が手紙を一通書いてそれが王さんに到るが、[完了]という様態を、持つ」という意を表している。

### 3. 話題の「確定性」について

第一章で述べたように、朱德熙(1982:96)は、主述構造の主語は話題である、と見なしたが、その決定的な証拠は如何にして得ることができるか。朱德熙(1982:96)の7.1.4では、

「说话的人选来作为话题的往往是他已经知道的事物。因此汉语有一种很强的倾向，即让主语表示已知的确定的事物，而让宾语去表示不确定的事物。(発話者が選択した話題は、往々にしてすでに知っている事物である。従って、中国語にはある種の強い傾向があると言える。即ち、主語に既知の確定した事物を表示させ、目的語に不確定の事物を表示させる、ということである。)

と述べている。本章では、この記述を基にして、話題が有する「確定性」について考えてみたい。そこで重要となるのが、主述構造の文の前にある文脈である。だが、本稿の第一章の(1)-(4)から看取できるように、朱德熙(1982:96)は、主述構造の前の文脈に着目した考察は行っていないので、以下筆者が収集した例文を用いて考察を行う。また、それらの例文の主述構造に含まれている意味を論理式で明示する。

次節の3.1では「場所」が話題となる例、3.2では「動作主」が話題となる例、3.3では「受け手」が話題となる例、そして3.4では「時間」が話題となる例について考える(以下の用例において、波線を引いた部分が、話題の「確定性」を証明するための手がかりとなる成分であるとする)。

#### 3.1 「場所」が話題となる例

(17) 茶送上来了。用一个大银盘拖着。大银盘里套着一个小银盘，小银盘里放着一杯红茶、一小盅牛奶、一小缸方糖、一牙夹在一个银夹子里的柠檬。弄得他简直不明白是他要喝茶，还是茶要喝他。(张

清《方舟日子只有一个太阳上火》（《只有一个太阳》）86頁）

“大银盘里套着一个小银盘”（大きな銀の皿に小さな銀の皿が置かれている）の主語の“大银盘里”は「確定的」と見なしえる。というのは，“大银盘里套着一个小银盘”の前の“用一个大银盘拖着”において“大银盘”が既に生起しているからである。要するに，“大银盘里套着一个小银盘”における“大银盘”は旧情報であると見なしえる。

これを踏まえて、以下“大银盘里套着一个小银盘”を論理表記する。なお、前章で表記した論理式と同様に、本章で表記する論理式からも、述語部分に内在する意味の中から選択した成分が話題である、ということが看取できる。

(18) 置ク ～ガ ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ  
 有’ [大银盘里, 套’ (φ, 小银盘) & 有’ (小银盘, 一个) &  
 持ツ ～ガ

存在スル ～ガ ～ニ 持ツ ～ガ ～ヲ  
 在’ (一个, 大银盘里) & 有’ [在’ (一个, 大银盘里), 着]  
 ～ヲ

この式は「大きな銀の皿という話題が、誰かが小さな銀の皿を置き、かつ、その小さな銀の皿が一つという数量を持ち、かつ、その一つが大きな銀の皿に存在し、かつ、それ（一つが大きな銀の皿に存在する）が[持続]という様態にある、という評価表現を持つ」と読むことができる。この式の中の“有’ [大银盘里, ……]”は「大きな銀の皿という話題が、～という評価表現を持つ」という意味を表している。“套’ (φ, 小银盘)”は「誰かが、小さな銀の皿を、置く」という意味を表している。そして“有’ (小银盘, 一个)”は「小さな銀の皿が、一つという数量を持つ」という意味を表し、“在’ (一个, 大银盘里)”は「一つが、大きな銀の皿に、存在する」という意味を表し、“有’ [在’ (一个, 大银盘里), 着]”は「一つが大きな銀の皿に存在するが、[持続]という様態を持つ」という意を表している。

### 3.2 「動作主」が話題となる例

この節では二つの例を挙げる。初めに(19)の例を見られたい。

(19) 紫不语曾经在一次采访里说过，她是在苏州出生，在大连上的中学，在北京上的大学。(テレビドラマ《约会专家》第25話)

ここでは“她是在苏州出生”(彼女は蘇州で生まれました)における主語の“她”が話題になっていると考える。なぜなら、この“她”は、前方の“紫不语”を指しているため、旧情報、つまり「確定的」であると見なしえるからである。

この文を論理式で分析すると、

(20) 生マレル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ  
是' {她, 出生' (她) & 在' (她, 苏州)}  
アル ～ガ ～デ

といった表記ができる。この式は「彼女という話題が、彼女が生まれて、かつ、その彼女が蘇州に存在する、という評価表現である」と読むことができる。この式の中の“是' {她, ……}”は「彼女が、～という評価表現で、ある」という意味を表している。“出生' (她)”は「彼女が、生まれる」という意味を表している。そして“在' (她, 苏州)”は「彼女が、蘇州に、存在する」という意を表している。

次の(21)の例では三人の人物が登場する。Aは息子、Bは父親、Cは母親である。息子が急に兵隊(文芸兵)になりたい、と言い出す、母親は強く反対している。が、父親は息子を応援したがっている。このような状況を踏まえて(21)のやりとりを見られたい。

(21) A: 我以前没学过，我以后不会学呀，再说了，我也受过熏陶。欸，爸，爸，爸，人那解放军说啊，一看我就知道家里有一个大导演天天在那儿熏陶我！

B: 真的！？他这都看出来？你别说，这人眼力真的好！……妈妈和我觉得你的个性不太适合当兵。

C: 对。(テレビドラマ《家有儿女》(第二部)第15話)

この例では“妈妈和我觉得你的个性不太适合当兵”（お母さんと僕はあなたはあまり兵隊(文芸兵)に向かないと思う)における主語の“妈妈和我”が話題になっていると見なす。つまり、この“妈妈和我”は「確定的」である。なぜなら、“我”は発話者自身、そして“妈妈”は発話者の妻であるため、“妈妈”と“我”は旧情報であると理解できるからである。

興味深い点は、この“妈妈和我觉得你的个性不太适合当兵”を発話したのは父親なので、通常は“我和妈妈”といったように、発話者を先に言うのが自然な語順だと考えられるが、ここでは“妈妈和我”といった順番をとり、“妈妈”が、発話者である父親の“我”に先行している、ということである。何故か。それは、この例の引用先のドラマ《家有儿女》によると、この場面では、“妈妈”は息子が兵隊になるのを強く反対しているが、(21)の例からも看取できるように、発話者である父親の“我”は、実は息子を支持したいと思っているからである。つまり、発話者の“我”は、“觉得你的个性不太适合当兵”という考えは主として“妈妈”のものであることを示すために、敢えて“妈妈和我”という語順をとったと推測しえる。

ではこの文も論理表記してみよう。

(22)                    思ウ                    ～ガ                    ～ト  
       有’ {妈妈和我, 觉得’ (妈妈和我, 你的个性不太适合当兵)}  
       持ツ                    ～ガ                    ～ヲ

この式は「お母さんと僕という話題が、お母さんと僕があなたはあまり兵隊に向かないと思う、という評価表現を持つ」と読むことができる。この式の中の“有’ {妈妈和我, ……}”は「お母さんと僕という話題が、～という評価表現を、持つ」という意味を表している。“觉得’ (妈妈和我, 你的个性不太适合当兵)”は「お母さんと僕が、あなたはあまり兵隊に向かないと、思う」という意味を表している。

### 3.3 「受け手」が話題となる例

(23) A:元满? 你在干什么?

B:没干什么呀。

A: 你在做什么?

B: 冬笋三丝汤。

A: 你怎么会做这个?

B: 怎么? 不可以吗? 我从小就会做呀。

A: 我要做这个的, 你就别做了。

B: 不好意思, 汤我已经做好了。(テレビドラマ《把爱带回家》(TV版)第23話)

この例では“汤我已经做好了”(スープはもう出来上がった)における主語の“汤”が話題になっていると判断できる。なぜなら、前の文脈において、“冬笋三丝汤”が生起しているからである。つまり、“汤”と“冬笋三丝汤”は字面上異なるが、この“汤我已经做好了”における“汤”は旧情報となり、“冬笋三丝汤”の意を代替していると見なしえるので、“汤我已经做好了”における“汤”は「確定的」であると解釈できる。

以下で論理式による分析を行う。

(24) 作ル ~ガ ~ヲ デキ上ガル ~ガ 持ツ ~ガ ~ヲ  
有' 【汤, 做' (我, 汤) & 好' (汤) & 有' {好' (汤), 了}&  
持ツ ~ガ

持ツ ~ガ ~ヲ  
有' [有' {好' (汤), 了}, 已经]  
~ヲ

この式は「スープという話題が、私がスープを作り、かつ、そのスープが出来上がり、かつ、それ(スープが出来上がる)が[完了]という様態を持ち、かつ、それ(スープが出来上がった)が[すでに]という様態を持つ、という評価表現を持つ」と読むことができる。この式の中の“有' 【汤, ……】”は「スープという話題が、~という評価表現を、持つ」という意味を表している。“做' (我, 汤)”は「私が、スープを、作る」という意味を表している。そして“好' (汤)”は「スープが、出来上がる」という意味を表し、“有' {好' (汤), 了)”は「スープが出来上がるが、





ている。そして“有”{一有’(日本的工业, 十分发达), 那时候}は「日本の工業が十分に発達していないが, あの時という時間を, 持つ」という意を表している。

#### 4. 結びにかえて

本稿は, 主に朱德熙(1982:96)における記述と用例を基に, 現代中国語における話題(topic)について論じた。述語論理と命題論理によって構成される論理式を用いて, 主述構造に含まれている意味を記述し, 主述構造の話題とは, 述語部分に内在する意味の中から選択した成分である, ということを明らかにした。また, 小説とテレビドラマから収集した実例を用いて, 主述構造の前の文脈, あるいは, 主述構造の話題が有する意味に着目し, 当構造における話題が「確定的」であることを証明した。さらに, これらに対しても論理式による分析を行った。

#### 注釈

- 1) 朱德熙(1982:96)の主述構造に対する見解は Chao(1968)の 2.4 における記述の影響を強く受けていると思われる。Chao(1968)の 2.4 の記述については稿を改めて詳述したい。
- 2) 本稿の論理式における括弧は“( )”、“{ }”、“[ ]”、“【 】”の四つを使用し,“( )”が最も作用域(scope)が狭く,“【 】”が最も作用域が広いと仮定する。即ち,“( )”は“{ }”より作用域が狭く,“{ }”は “[ ]”より作用域が狭く, “[ ]”は “【 】”より作用域が狭い, とする。また, 本稿の論理式は, 主述構造における話題と評価表現の關係に集中するため, これらと深く関わらないと判断した成分は, 簡略表記, 或は論理式に表さないこととする。なお, 論理式に関しては青木(2015)の記述も参照されたい。
- 3) 次の(5)の式では用例の中には存在しない“有”が用いられているが, これは『論理哲学論考』(ウィトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳:184)における記述を拠り所としている。野矢は論理形式について次のような注釈

を与えている。

「ある対象の論理形式とは、その対象がどのような事態のうちに現れうるか、その論理的可能性の形式のことである。たとえばある対象 a が赤い色をしていたとしよう。対象 a にとって赤いという色は外的性質であり、他の色をもつこともありえた。つまり、〈a は青い〉〈a は黄色い〉等の事態も可能である。このことを「対象 a は色という論理形式をもつ」と言う。……」

故に、本稿では、以下の論理式において“有”を用いた場合も、以上の「論理形式」の概念に基づいて使用したとする。

### 参考文献

青木萌 2015. 「現代中国語における副詞“在”の意味と論理」, 『神奈川大学大学院言語と文化論集』(特別号)。神奈川大学大学院外国語学研究科。

ウィトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳 2003. 『論理哲学論考』。東京:岩波文庫。

朱德熙 1982. 《语法讲义》。北京:商务印书馆。

Chao, Yuenren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.

Chao, Yuenren. 2011(1968). *A Grammar of Spoken Chinese*. 商务印书馆。

### 用例出典

[小説]

张洁 1997. 《方舟日子只有一个太阳上火》。北京:作家出版社。

郁达夫 2009. 《故都的秋》。长春:吉林出版集团有限责任公司。

[テレビドラマ]

林丛 2005. 《家有儿女》(第二部)。北京箐蕊文化传播有限公司。

澄丰、朱锐斌 2013. 《约会专家》。上海剧芯文化创意有限公司。

陈启峻 2014. 《把爱带回家》(TV版)。北京博方文化传媒有限公司。

## 執筆紹介

永野 美菜	本学欧米言語文化専攻博士前期課程修了（2015年3月）
青木 萌	本学非常勤講師
横山 昌子	本学非常勤講師
胡 杰	本学中国語文化専攻博士後期課程2年
楊 洲	本学中国語文化専攻博士後期課程1年

## 編集後記

一昨年にも増して昨年は、人口知能が様々な分野で注目された。人口知能を備えたロボットが、危険物処理はもちろん外国語の翻訳も高齢者介護や自動車の運転もする。チェスや将棋も学習し、囲碁のトップ棋士をも破ってしまった。こうなると我々人間は何故こんなに苦勞して読み書きそろばんを覚えなさいといけなのだろうと悩んでしまう。研究論文を代わりに書き上げてくれるロボットが出現するかもしれない。それは夢のようでもあり、我々研究者にとっては悪夢でもある。

しかしながら、その悪夢はまだ当分は現実化しそうにない。長年人工知能を研究してきた国立情報学研究所の新井のり子教授が昨秋、人工知能の限界を見極め、人間の能力との違いを明らかにした。結論として人工知能は「意味を理解できない」のである。

意味を理解できないというのは、例えば、「ガラスコップを落とす」と「コップが壊れる」ことを関連付けられない。数の計算だけを行う人工知能は、その二つが連続して起きることが多ければ統計処理により関連付けるだけである。従って統計的に起きる数が多ければ全く関係ない事柄、例えば「雨が降る」と「試験で100点を取る」を関係付ける。「雨が降らなくても100点を取る」ことを受け入れられない。「コップを落としても壊れないことがある」と人間は悩み考え、「落とすことの衝撃で壊れる」「衝撃が小さいと壊れない」ということへ導き、さらには「皿も落とすと割れる」ことを予測する。つまりは「ものが落ちる」ことの意味を問い、「ものが壊れる」ことの意味を問う。一つ一つの事柄の意味を理解するからこそ関連を考え「何故？」が湧いてくるのである。

人口知能はまた、喜びも悲しみも、好きも嫌いも、興味がわくという感情も持つことができない。心の奥から湧いて来る好奇心を感じることもない。更にはその感情の深さは人によって様々で、悲しみが癒えることも深い愛情が日々あせることも知らない。膨大なデータを統計的に瞬時に処理し、その結果から数による選択はできるが、それに対しロボット自身がどういう感情を持つか、興味を持っているかなどわからない。というより、そういうものはないのである。

「人間は考える葦である」と言ったのは17世紀フランスの哲学者パスカルである。400年近く経って、人間はようやくその意味を知ったのである。

ということで、新たな発見に胸躍らせることも、答えの出ない問いに考え悩み抜くこともしない。そんな成果を形にしたこの論集は、ロボットは逆立ちしても書けないのである。

（外国語学部准教授 片岡喜代子）

## 投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を修了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出すること。

- ・ 長さは、日本語・中国語の場合はA4版（横33字、縦29行）で20枚（2万字程度）、その他の言語の場合はA4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。

- ・ 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の名前を明示する。  
(例)

Verbal Irony and Echoic Use                      KANAGAWA Tarou

The phonological system of Hum mong ja hoe KANAGAWA Hanako

- ・ 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。
- ・ 原稿を提出する際は、次の3点を提出すること。

ア) 完全原稿を出力したもの    1部

イ) 原稿表紙（名前・所属・連絡先・論文標題を記した一覧表）  
1部

ウ) 外部メモリ（USB等）にア)とイ)を保存したもの（後ほど返却）

4. 原稿提出締め切り：11月30日（厳守）

（執筆者は7月31日までに編集委員に提出論文の概要と予定字数を予告すること。）

(2011.12.14 研究科委員会承認)